



オーディオ・ビジュアル編

ラジオを聴く

本機では、FMラジオ・AMラジオを受信してお楽しみいただけます。

ラジオの基本的な操作方法については、**Q-P.87**～**Q-P.90**をご覧ください。

よく聴く放送局を登録して利用する	86
ラジオの設定を変更する	89

よく聴く放送局を登録して利用する

プリセットチャンネルとは

現在走行中のエリアで受信可能な放送局の周波数を登録できるチャンネルです。何度も周波数を合わせることなく、ワンタッチで好みの放送局を受信できます。

プリセットチャンネルへの登録方法は、手動と自動の2種類があります。詳しくは「放送局をリストに登録する」(P.87)をご覧ください。



プリセットチャンネルリスト
(放送局リスト)

「ホーム」と「お出かけ」を使い分ける

地域によって放送局が異なる場合に、そのエリア内でのプリセットチャンネルを「ホーム」、「お出かけ」にそれぞれ設定することで、受信バンドをワンタッチで切り替えて利用できます。

たとえば東京にお住まいで、よく大阪に出かけられる場合は、「ホーム」に東京、「お出かけ」に大阪の放送局を登録しておけば、お出かけ時にもワンタッチで好みの放送局を受信することができます。



それぞれのキーをタッチすると、放送局リストの表示が切り替わります。

放送局をリストに登録する

よく聴く放送局を放送局リストにプリセット（あらかじめ周波数を本機に記憶させておくこと）できます。放送局リストは、AMラジオ、FMラジオともに、ホームモードとお出かけモードの2種類があります。登録できる放送局は、それぞれのモードで8つまでです。



- ホーム、お出かけ をタッチしてモードを切り替えると、2種類の放送局リストに登録できます。

手動で登録する

ここまでの操作



1 ◀ または ▶ をタッチして、登録したい放送局を受信する

2 登録するチャンネルを、「ピーツ」という音がするまでタッチし続ける



受信中の放送局が、そのチャンネルに上書き登録されます。



- 登録した放送局を聴くには、「選局する」(P.88)をご覧ください。

自動で登録する(オートプリセット)

ここまでの操作



1 APS をタッチする

2 はい をタッチする

受信可能な放送局が、自動的に上書き登録されます。



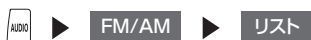
- 本操作中は、放送局を選択できません。終了するまでお待ちください。中止するには、APS中止 をタッチします。
- 登録した放送局を聴くには、「選局する」(P.88)をご覧ください。

放送局リストを利用する

選局する

登録した放送局を、放送局リストから選局します。

ここまでの操作



1 目的の放送局をタッチする



選択した放送局が受信されます。



- AVコントロールバーの **前P.CH**、**次P.CH** をタッチして、放送局を切り替えることもできます。
- AMラジオ、FMラジオを切り替えるには、「AM/FMを切り替える」(Q-P.90) をご覧ください。

放送局名を編集する

登録した放送局の名称を編集できます。



- 走行中は本操作を行えません。
- 「お出かけ」モードに設定されている場合は、放送局名は表示されますが編集はできません。

ここまでの操作



1 名称を変えたい放送局をタッチする

2 設定 をタッチする

3 受信局編集 をタッチする



4 放送局名 をタッチする



5 放送局を入力し、決定 をタッチする

ラジオの設定を変更する

受信エリアを切り替える



• 走行中は本操作を行えません。

エリアを切り替える

受信エリアを正しく設定することで、受信中の放送局名を自動的に表示できます。

ここまでの操作



FM/AM



リスト

1 **設定** をタッチする

2 **エリア選択** をタッチする

3 エリアをタッチする



放送局エリアが切り替わります。



- **ユーザータイトルを使用** をタッチすると、ご自分で登録した放送局名 (P.88) を表示できます。
- 「お出かけ」モード選択時は、**ユーザータイトルを使用** は表示されません。

Memo



オーディオ・ビジュアル編

テレビを観る

本機では、地上デジタル放送のテレビをお楽しみいただけます。

テレビの基本的な操作方法については、**Q-P.91**～**Q-P.94**をご覧ください。

地上デジタル放送とは	92
テレビを視聴する前に	94
ワンセグ放送と12セグ放送を切り替える	96
地上デジタル放送を観る	97
よく観る放送局を登録して利用する	99
便利な放送を利用する	104
地上デジタル放送の受信設定をする	107

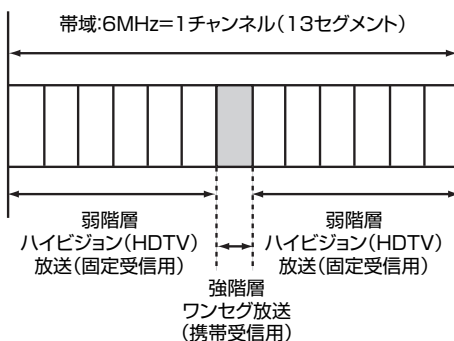
地上デジタル放送とは

地上波のUHF帯を使用したデジタル放送です。高品質の映像と音声、さらにデータ放送が特長です。本機では、ワンセグ／12セグの地上デジタル放送を楽しめます。

12セグとワンセグについて

日本の地上デジタル放送は、UHF帯域の電波を使用しており、約6MHzの帯域を1つのチャンネルとして13個のセグメントと呼ばれる領域に分けて放送する仕組みとなっています。そのうち12セグメントを使って高画質・高音質の固定受信向けのHDTV放送（弱階層）を行うサービスを12セグと呼びます。ワンセグ放送は、残り1セグメントを使って携帯や移動体向けの簡易動画放送（強階層）を行うサービスです。

ワンセグは12セグに比べると画質や音質は劣りますが、電波の到達距離は12セグより長く、送信局から離れた場所でも安定して受信できる特長を備えています。



マルチチャンネル放送について

地上デジタル放送では、1つの放送局が図のように周波数帯域を2～5に分け、それらを組み合わせることでチャンネルを構成しています。

	A 放送局		
	〇〇〇ch	△△△ch	×××ch
6時	プロ野球中継 (デジタルハイビジョン放送)		
7時	プロ野球 (標準テレビ放送)	ドラマ (標準テレビ放送)	ニュース (標準テレビ放送)
8時	映画 (デジタルハイビジョン放送)		

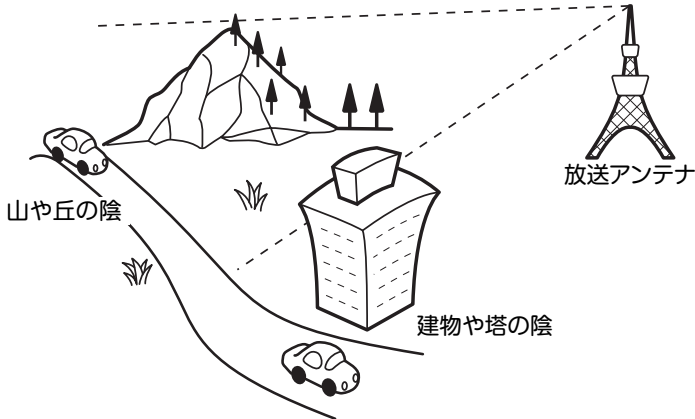
上記の例で、6時台は〇〇〇chと△△△chと×××chのすべてを使いプロ野球を放送。7時台は〇〇〇chでプロ野球、△△△chでドラマ、×××chでニュースをそれぞれ放送。8時台は、〇〇〇chと△△△chと×××chのすべてを使い映画を放送、などのような編成ができます。上記の放送の例では、〇〇〇chをメインチャンネル、△△△chと×××chをサブチャンネルと呼びます。

本機はマルチチャンネルに対応しています。

テレビ放送の受信について

テレビをご覧になるにあたって、以下のような現象が起こることがあります。

- 車の移動によって、建物や山などの障害物に影響されて電波の強さが変わり、受信状態が悪くなることがあります。
- 放送エリアから離れると、電波が弱くなり、受信状態が悪くなります。
- 電車の架線や高圧線、信号機などの外部要因により、画像が乱れたりする場合があります。



アナログ放送からデジタル放送への移行について

地上デジタル放送は、関東、中京、近畿の三大広域圏の一部で2003年12月から開始され、その他の地域でも、2006年末までに放送が開始されました。今後も受信可能エリアは、順次拡大されます。地上アナログ放送は2011年7月に終了することが、国の方針として決定されています。

テレビを視聴する前に

テレビを視聴するために必要なB-CASカードについて説明します。

B-CASカードとは

B-CASカードは、デジタル放送番組の著作権保護や有料放送の視聴などに利用するカードです。地上デジタル放送では、このB-CASカードがセットされていないと放送をご覧になれません。地上デジタル放送を視聴するときは、必ず本機にB-CASカードを入れてください。



- B-CASカードは本機に付属のものを使用してください。

B-CASカードについて

- 地上デジタルテレビ放送は、放送番組の著作権保護のため、コピー制御信号を加えて放送しています。その信号を有効に機能させるためにB-CASカードが必要です。
- B-CASカードを折り曲げたり、濡らしたり、大きな衝撃を加えたりしないでください。衝撃などが加わるとB-CASカードが故障する恐れがあります。
- B-CASカードのIC（集積回路）部は触らないでください。IC部に触れるとB-CASカードが故障する恐れがあります。
- B-CASカードを直射日光に当たるところに長時間放置しないでください。高温によりB-CASカードが故障する恐れがあります。
- B-CASカードを磁石の近くやテレビの上など、磁気がある場所に放置しないでください。磁気によりB-CASカードが故障する恐れがあります。
- 試乗車など、不特定または多数の人の視聴を目的とした業務用途には使用できません。
※ 試乗車の場合は、特別用途向けカードをご使用ください。

B-CASカードを台紙からはがす

B-CASカードの「使用許諾契約約款」をよくお読みになり、ご使用ください。お客様がカードのパッケージを開封した時点で、カード台紙に記載の「B-CASカード利用許諾契約約款」を締結したことになります。

B-CASカードが貼り付けられていた台紙は、大切に保管しておいてください。B-CASカスタマーセンターへ問い合わせる際の案内などが記載されています。



- B-CASカードに関する内容の問い合わせや、B-CASカードを紛失された場合は、下記の問い合わせ先へ連絡してください。
株式会社ビーエス・コンディショナルアクセスシステムズ カスタマーセンター
TEL：0570-000-250（AM10：00～PM8：00）（年中無休）
- お問い合わせ時にB-CASカードのID（識別）番号が必要となる場合があります。あらかじめB-CASカードのID番号は控えておいてください。

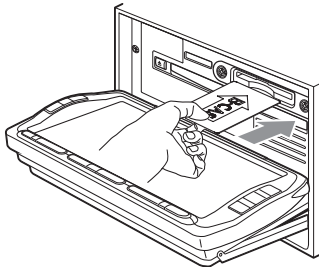
B-CASカードを使う

B-CASカードを入れる



- B-CASカードの抜き差しは、必ず本機の電源を切った状態（イグニッションキーを「0」にする）で行ってください。
- 故障の原因となりますので、カード挿入口にB-CASカード以外のものを挿入しないでください。
- 車から離れる時は、必ず操作パネルを閉じてください。

- 1 本機の電源を切る（イグニッションキーを「0」にする）
- 2 操作パネルを開く
- 3 ICチップ面を下にして、B-CASカードをカード挿入口に挿入する



- B-CASカードは手でしっかりと持って挿入してください。
- B-CASカードを入れる向きを間違えないようにしてください。入れる向きを間違えると地上デジタル放送を視聴できません。
- B-CASカードは必ず奥に突きあたるまで差し込んでください。奥まで差し込まれていないと、操作パネルが閉じなくなり、受信できません。

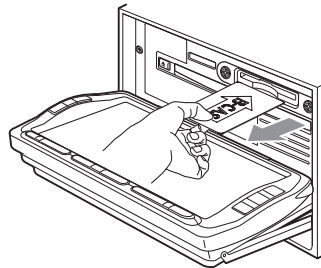
- 4 操作パネルを閉じる

B-CASカードを抜く



- B-CASカードの抜き差しは、必ず本機の電源を切った状態（イグニッションキーを「0」にする）で行ってください。
- 車から離れる時は、必ず操作パネルを閉じてください。

- 1 本機の電源を切る（イグニッションキーを「0」にする）
- 2 操作パネルを開く
- 3 静かにB-CASカードを抜く



- B-CASカードは指先でしっかりとつまんでゆっくりと抜いてください。

- 4 操作パネルを閉じる

ワンセグ放送と12セグ放送を切り替える

ワンセグ／12セグの自動切替機能について

本機の地上デジタルTVチューナーは、12セグ放送受信時に電波が弱くなった場合、12セグ放送からワンセグ放送へ自動的に切り替える機能を搭載しています。

自動切替機能ON時に、12セグ放送視聴中に受信電波が弱くなると、視聴していたチャンネルのワンセグ放送に自動的に切り替わります。



- ワンセグ放送の受信感が悪い場合や12セグ放送で視聴していたチャンネルがワンセグ放送にない場合には、自動切替機能は働きません。ただし放送局によっては、ワンセグ放送を行っていないのにワンセグと認識してデータが送信され、自動切替機能が動作する場合があります。
- 自動切替機能をONに設定していると、手動でワンセグ放送に切り替えても12セグ放送の受信電波が強くなった場合は、12セグ放送に切り替わります。
- 放送局によっては、12セグ放送とワンセグ放送とで番組が異なる場合があります。
- 自動切替機能OFF時に、12セグ放送受信時に電波が弱くなった場合は、ワンセグ放送に切り替わらずに、12セグ放送の映像が静止画で表示されます。(「ノイズコンシールメント機能」(P.108))

手動で切り替える

視聴する放送を手動で切り替えます。

1

ワンセグ をタッチする

ワンセグ をタッチするたびに、ワンセグ放送と12セグ放送が切り替わります。



- 12セグ放送のサブチャンネル(P.92)を視聴しているときにワンセグ放送に切り替え、再度12セグ放送に切り替えると、視聴しているサブチャンネルに戻ります。

地上デジタル放送を観る

選局する

チャンネル番号を入力して選局する

12セグ放送のメイン/サブチャンネル、およびワンセグ放送のメイン/サブチャンネルを直接入力して選局することができます。

ここまでの操作



1 観たい3桁チャンネル番号を入力し、**決定** をタッチする



- 3桁に満たない番号を入力した場合は、エラーとなります。
- ワンセグ自動切替 (P.107) が「しない」の場合、ワンセグ放送を選んでいるときはワンセグの3桁チャンネル番号のみ入力を受け付けて選局できます。12セグ放送を選んでいるときは、12セグの3桁チャンネル番号のみ入力を受け付けて選局できます。いずれも放送局がない場合は、入力した番号がキャンセルされるので再入力します。
- ワンセグ自動切替が「する」の場合は、ワンセグ/12セグのどちらの3桁チャンネル番号を入力しても放送局があれば選局されます。
- プリセットチャンネルリストで観たい番組のチャンネル番号をタッチし、直接選局することもできます。

番組表(EPG)から選局する

観たい番組を番組表から探して選局します。

ここまでの操作



- 番組表は、他のソース選択時やオーディオパワー OFF時などテレビモードがOFFのときに、15分ごとに自動で更新されます。

1 ▲、▼、▶、◀ で観たい番組を選択し **決定** をタッチする



選択した番組の放送を受信します。

前日 :

翌日以降の番組表を参照中に、前日の番組表を表示します。

翌日 :

翌日の番組表を表示します。

番組内容 :

番組の詳細内容を表示します。

拡大縮小 :

タッチするごとに4パターンの拡大縮小画面が表示されます。

受信可能な中継局／系列局を探す

走行中に受信状態が悪くなった場合などに、中継局や系列局を探して切り替えることができます。

はじめに中継局を探し、中継局がなければ系列局を探します。



- 系列局に切り替わった場合、時間帯によって番組内容が異なることがあります。
- 切り替わった中継局／系列局は、リセットチャンネルリストに自動登録されません。

1 走行中に **系列局** をタッチする

走行エリア内で、受信状態の良い中継局／系列局を探索し切り替えます。

異なる地域をまたいで走行する場合は、中継局／系列局を自動で探し出して受信することができます。詳しくは、「系列局自動サーチ」(P.108)をご覧ください。

よく観る放送局を登録して利用する

プリセットチャンネルとは

現在走行中のエリアで受信可能な放送局を登録できるチャンネルです。何度もチャンネルを合わせることなく、ワンタッチでお好みの放送局を受信できます。

プリセットチャンネルへの登録方法は、手動と自動の2種類があります。詳しくは「放送局をリストに登録する」(P.100)をご覧ください。



プリセットチャンネルリスト
(放送局リスト)

「ホーム」と「お出かけ」を使い分ける

地域によって放送局が異なる場合に、そのエリア内でのプリセットチャンネルを「ホーム」、「お出かけ」にそれぞれ設定することで、受信バンドをワンタッチで切り替えて利用できます。

たとえば東京にお住まいで、よく大阪に出かけられる場合は、「ホーム」に東京、「お出かけ」に大阪の放送局を登録しておけば、お出かけ時にもワンタッチでお好みの放送局を受信することができます。

12セグ放送のサブチャンネルを視聴しているときにバンドを切り替え、再度元のバンドに戻ると、視聴しているサブチャンネルに戻ります。



それぞれのキーをタッチすると、放送局リストの表示が切り替わります。

自動表示メッセージについて

テレビを視聴中に、放送局から自動的に送られてくるメッセージがある場合は、そのメッセージ内容が画面上に表示されます。



メッセージ削除 をタッチすると、自動表示メッセージが消去されます。表示されない場合は、自動表示メッセージは消去できません。放送局側によって自動消去されるまでお待ちください。

放送局をリストに登録する

よく観る放送局を放送局リストにプリセット（あらかじめ放送局を本機に記憶させておくこと）できます。放送局リストは、ホームモードとお出かけモードの2種類があります。登録できる放送局は、それぞれのモードで12個までです。



- **ホーム**、**お出かけ** をタッチしてモードを切り替えると、2種類の放送局リストに登録できます。
- プリセットチャンネルに登録される放送局は、12セグのメインチャンネルのみです。ワンセグや12セグのサブチャンネルを受信中にプリセットチャンネルに登録しても、そのメインチャンネルが登録されます。

手動で登録する

ここまでの操作



1 ◀▶ または ▶▶ をタッチして、登録したい放送局を受信する

2 登録するチャンネルを、「ピーツ」という音がするまでタッチし続ける



受信中の放送局が、そのチャンネルに上書き登録されます。



- 登録した放送局を観るには、「選局する」(P.102)をご覧ください。

自動で登録する(オートプリセット)

ここまでの操作



1 APS をタッチする

2 はい をタッチする

受信可能な放送局が、自動的に上書き登録されます。

受信した放送局は、決められたプリセットチャンネルに登録されます。



- 本操作中は、放送局を選択できません。終了するまでお待ちください。
- 登録した放送局を観るには、「選局する」(P.102)をご覧ください。
- 受信状態によっては、約1分ほど処理時間がかかることがあります。
- オートプリセット中は、◀▶ ▶▶ を押してキャンセルすることができます。
- リモコンからオートプリセットを行った場合は手順2の確認画面は表示されず、すぐにオートプリセットが開始されます。
- オートプリセットを行うと、現在のプリセットチャンネルに上書き登録されます。以前に手動で登録したプリセットチャンネルがクリアされる場合もあります。
- オートプリセットを途中解除した場合は、プリセットチャンネルの内容は書き換わらず、プリセットチャンネルのうち、オートプリセット前に受信していたチャンネルが選局されます。
- 地域設定 (P.108) で優先エリアに指定されている地域の番組は、優先的にプリセットチャンネルに登録されます。
- 県境などでオートプリセットを実行時、同じチャンネルに複数の放送局が重なった場合は、オートプリセットしたリスト内の未登録のプリセットチャンネルに割り振られます。
- 空きプリセットチャンネル数により、オートプリセットした結果が全部は登録できない場合があります。

放送局リストを利用する

選局する

登録した放送局を、放送局リストから選局します。

ここまでの操作



TV



リスト

1 目的の放送局をタッチする



選択した放送局の番組が受信されます。



- AVコントロールバーの **前P.CH**、**次P.CH** をタッチして放送局を切り替えることもできます。
- 映像画面をタッチして表示される放送局リストからも、同様の操作ができます。

メインチャンネル／サブチャンネルを選局する

選局する

3桁チャンネル番号のメインチャンネル／サブチャンネルを自動的に選局します。

ここまでの操作



1 ◀◀ または ▶▶ をタッチする



現在受信中のチャンネルを含む次、または前のチャンネルのメインチャンネル／サブチャンネルを探して選局します。



- 地図画面でメイン／サブチャンネルを選局するには、AVコントロールバーの **前P.CH** または **次P.CH** をタッチします。

便利な放送を利用する

データ放送を利用する（12セグ放送のみ）

地上デジタル放送には、映像や音声によるテレビ放送のほかに、現在地周辺の生活情報やクイズ・ニュース・天気予報などの便利な情報をお知らせするデータ放送があります。



- データ放送を利用するには、あらかじめ現在地の郵便番号を設定しておく必要があります。（P.108）
- データ放送がない番組の場合、**d** をタッチしても何も表示されません。

データ放送を利用する

ここまでの操作



1

キー切替（停止中）または **d**（走行中）をタッチする

データ放送画面が表示されます。



数字：

数字入力メニューに切り替わります。

青 赤 緑 黄：

画面に表示されている指示にしたがってタッチします。



- チャンネル選局直後には **d** をタッチしても動作しないことがあります。その際は、再度 **d** をタッチしてください。
- 画面右下に「⇒⇒⇒データ取得中」と表示されているときは、データ放送取得中のため、表示が消えてから **d** をタッチしてください。

緊急放送を観る

緊急放送とは、災害など、緊急な出来事が発生した場合に視聴者に、いち早く情報を知らせる放送システムです。

デジタル放送受信中に緊急放送が始まると、画面に「緊急放送」または「EWS」(Emergency Warning System) と表示され、自動で緊急放送に切り替わります。



放送が終了すると、緊急放送前のチャンネルに自動で戻ります。



- 緊急放送中でもチャンネル切り替えなどの操作はできます。
- 切り替えた放送局が緊急放送中の場合も、同様に緊急放送が表示されます。

音声を切り替える

2ヶ国語放送や複数の音声がある番組で、音声を切り替えたり、主音声や副音声に切り替えたりします。

音声を切り替える

1 受信中に映像画面で「音声」をタッチする

現在選択中の音声が表示されます。



受信される番組は、それぞれ音声種類を持っています。「音声」をタッチするたびに12セグ放送は最大16音声まで、ワンセグ放送は2音声まで切り替えられます。また、音声多重放送時には各音声の主音声と副音声を切り替えられます。

12セグ放送の場合

第1音声（主）→第1音声（副）→
第2音声（主）→第2音声（副）→
…第16音声（主）→第16音声（副）
→第1音声（主）…

ワンセグ放送の場合

第1音声（主）→第1音声（副）→
第2音声（主）→第2音声（副）→
第1音声（主）

2ヶ国語放送受信中などで番組に主音声、副音声がある場合は、「音声」をタッチして切り替えることができます。

副音声の状態では他のチャンネルに切り替えたとき、同じく副音声で放送されていればそのまま継続されます。

副音声の状態でも再度「音声」をタッチすると、主音声に切り替わります。



• 音声情報のない箇所は飛ばして切り替わるので、必ずしも上記の動作にはなりません。

地上デジタル放送の受信設定をする

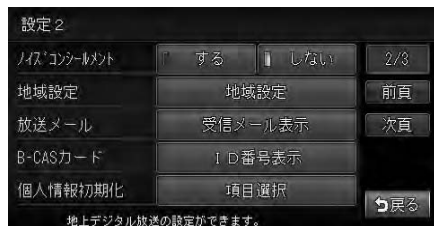
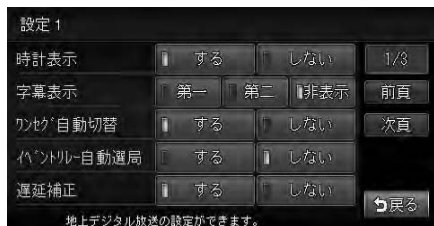
地上デジタル放送の設定をする

地上デジタル放送で12セグとワンセグ共通の各種設定・編集ができます。

ここまでの操作



設定メニュー画面が表示されます。



設定項目	設定内容	設定値	参照ページ
時計表示	操作メニューの表示が消えたあとも映像上に時計のみを表示する	する* / しない	—
字幕表示	映画やドラマなど字幕のついた番組受信中に字幕を表示する機能を設定する 表示する場合は「第1」「第2」の各言語から選択します。	第1 / 第2 / 非表示*	—
ワンセグ自動切替	12セグ受信中に受信感度が悪くなった場合、自動でワンセグモードへ切り替える機能を設定する	する* / しない	—
イベントリレー自動選局	放送中に放送局が変更される番組について、放送局の切り替えを自動で行う	する / しない*	—
遅延補正	12セグ / ワンセグ自動切替時の映像 / 音声ズレを軽減する	する* / しない	—

※は工場出荷時の初期設定です。

テレビを
観る

地上デジタル放送の受信設定をする

設定項目	設定内容	設定値	参照ページ
ノイズ コンシールメント	受信が困難になったときに、表示可能な最後の画面を静止画として表示する	する／しない*	—
地域設定	オートプリセット実行時に重複した放送局がある場合の表示優先順位を決定する またデータ放送受信時に、地域情報を取得するために郵便番号を設定する	東京*	P.108
放送メール	放送局から送られてくるメールの内容を表示する	—	P.109
B-CASカード	B-CASカードのID情報を表示する	—	P.110
個人情報初期化	個人情報を初期化する	—	P.110
系列局自動サーチ	30秒間受信レベルが回復しない場合、走行地域を考慮して中継局／系列局を自動で検出する	する*／しない	—

優先エリアを切り替える

県境などでオートプリセットを実行時、同じチャンネルに複数の放送局が重なった場合に、優先エリアのチャンネルが選択されるよう設定します。またデータ放送受信時に地域情報を取得するために郵便番号を設定します。

ここまでの操作



1 [地域設定] の **地域設定** をタッチする

エリア選択画面が表示されます。

2 優先させたい放送局エリアをタッチして、**決定** をタッチする



3 放送局エリアの郵便番号を入力し、**決定** をタッチする



- エリアのみ設定したい場合や、その地域の郵便番号が不明な場合には、ランダムな数字を入力してください。（ゼロを7桁入力した場合は設定できません）データ放送は受信できませんが、エリア設定を行うことができます。

放送メールを表示する

放送局から送られてくるメールの内容を表示できます。

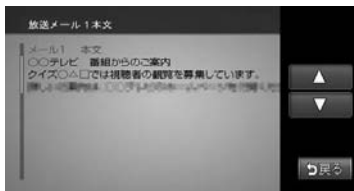
ここまでの操作



1 [放送メール] の 受信メール表示 をタッチする

放送メール一覧画面が表示されます。すでに表示したメールは「既読」が、まだ表示していないメールには「未読」が表示されます。

2 表示させたいメールをタッチする



選択した放送メールの内容が表示されます。



- 放送メールの内容が複数ページあるときは、▲ ▼ で画面をスクロールして表示します。
- 受信した放送メールは最大8個まで保存されます。8個以上の放送メールを受信した場合は、一番古い放送メールが自動的に削除されます。一番古いメールが未読状態でも削除することもできます。(P.110)
- 放送メールの受信が1通もない場合、**受信メール表示** はタッチできません。

B-CASカードのID情報を確認する



1 [B-CASカード] の ID番号表示 をタッチする

B-CASカードIDの確認画面が表示されます。

2 B-CASカードのID情報などを確認する



テスト をタッチすると、B-CASカードの通信テストを行います。通信テストがエラーの場合、番組放送画面に戻るときにメッセージが表示されます。メッセージの内容にしたがって対処してください。



- B-CASカード未挿入時には、B-CASカードID番号表示画面の「グループID」以外に「-----」が表示されません。

個人情報を初期化する



1 [個人情報初期化] の 項目選択 をタッチする

2 初期化したい個人情報をタッチする



削除の確認画面が表示されます。

全データの初期化 :

設定メニューで設定した項目およびプリセットチャンネルリストを初期化します。また、放送メールをすべて消去します。

受信メールの消去 :

放送メールをすべて消去します。

各種設定の初期化 :

設定メニューで設定した項目を初期化します。プリセットチャンネルリストの初期化および放送メールの消去は行いません。

3 はい をタッチする

選択した各設定が初期化されます。



- 初期化メッセージ表示中には、エンジンを切らないでください。初期化中にエンジンを切った場合、初期化できないことがあります。



オーディオ・ビジュアル編

DVDを観る


本機では、市販されているDVDビデオ、またご家庭などで録画されたDVD-VRをお楽しみいただけます。DVDビデオとDVD-VRでは操作方法が異なります。ご利用になるDVDの種類に該当する箇所をご覧ください。

DVDの基本的な操作方法については、**Q-P.95～Q-P.100**をご覧ください。

本機で使えるDVD	112
いろいろな再生方法	113
いろいろな操作方法	116
DVDビデオの初期設定を変更する	118

本機で使えるDVD

再生できるディスク

-  のついているディスク
- リージョン番号が「2」「ALL」のディスク
- DVD-VR

再生できないディスク

- 8cmディスク
- 異形のディスク
- リージョン番号が「2」「ALL」以外のディスク
- パケットライト方式で記録されたディスク
- ご家庭でハイビジョン録画したディスク
- DVD-RAM
- デュアルディスク (Dual Disc) は、ディスクに傷がついたり、ディスクが取り出せなくなる可能性があるので使用しないでください。
- ラベルを貼り付けたディスクは、ディスクが取り出せなくなる可能性があるので使用しないでください。

※ビデオモードで録画・ファイナライズしたDVD-R、DVD-RW、DVD+R、DVD+RWは、機器の仕様や環境設定、ディスクの特性、傷、汚れなどにより再生できない場合があります。

いろいろな再生方法

DVDビデオの再生方法

タイトル・チャプター番号を入力して再生する

ここまでの操作



- 1 タイトル番号またはチャプター番号を入力し、**決定** をタッチする



チャプター :

チャプター番号を入力するときにタッチします。

タイトル :

タイトル番号を入力するときにタッチします。

- 2 **戻る** をタッチする

入力したタイトルまたはチャプターが再生されます。

メニューから再生する

ここまでの操作



- 「操作はできません」と表示された場合は、DVDビデオのディスク自体にメニューが設定されていません。

- 1 **トップメニュー** または **メニュー** をタッチする

トップメニューまたは再生中のチャプターのメニューが表示されます。

- 2 **▲**、**◀**、**▶**、**▼** をタッチして、選択したいメニューにカーソルを移動し、**決定** をタッチする



選択したメニュー項目が再生されます。



- **10キー** をタッチすると、メニュー番号を直接入力してメニュー項目を選択できます。

DVD-VRの再生方法

DVD-VRのディスクでは、以下の方法で再生することができます。

- タイトルリストからタイトルを直接選択して再生する
- お手持ちのDVDレコーダーで作成したプレイリストから再生する



• プレイリスト…DVD映像の好みのシーンだけに編集し、独自に作成したタイトルのごと

タイトルリストから再生する

ここまでの操作



1 観たいタイトルをタッチする



選択したタイトルが再生されます。



- **番号指定** をタッチしてタイトル番号を入力すると、入力した番号が先頭になったタイトルリストが表示されます。

2 戻る をタッチする

リスト画面が消え、映像画面に切り替わります。

プレイリストから再生する

1 **プレイリスト** をタッチする

プレイリストがONになります。

2 **リスト** をタッチする

プレイリストが表示されます。

3 観たい項目をタッチする



選択した項目が再生されます。



- **番号指定** をタッチしてプレイリスト番号を入力すると、入力した番号が先頭になったプレイリストが表示されます。

4 **戻る** をタッチする

リスト画面が消え、映像画面に切り替わります。

リピート・スキャン再生をする

1つのチャプターまたはタイトルを繰り返して再生したり、10秒間ずつ順に再生できます。



- DVD-VRでプレイリストを利用して再生している場合は、リピート再生、スキャン再生を行えません。

リピート・スキャン再生をする

ここまでの操作



1 目的の項目の **CHAPTER** または **TITLE** をタッチする



2 **戻る** をタッチする

選択した動作で再生が始まります。



- 通常再生に戻すには、手順1を操作して、**CHAPTER** または **TITLE** をタッチしてオフの状態にします。
- スキャン再生は、早送り／早戻したときに自動的に解除されます。

いろいろな操作方法

画面サイズを切り替える

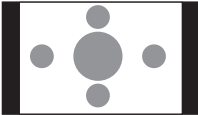
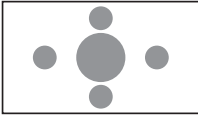
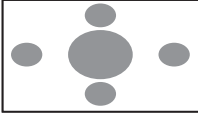



- ・状態表示をオンに設定している場合は、画面サイズは常に「フルワイド」で表示されます。画面サイズを切り替える場合は、状態表示をオフに設定してください。(P.124)

ここまでの操作



画面サイズを選択してタッチすると、選択したサイズで画面が表示され、通常の映像画面に戻ります。

設定項目	設定の内容
ノーマル 	映像が縦横の比率を変えずに中央に表示されます。映像と画面のサイズが異なる場合、画面の余った部分が黒く表示されます。
ワイド 	映像の左右部分が横に広がって画面いっぱいに表示されます。映像と画面のサイズが異なる場合に違和感を少なく表示できます。
フルワイド 	映像が画面いっぱいに表示されます。映像と画面のサイズが異なる場合、映像の比率が変わって表示されます。
シネマ 	通常のテレビでシネスコサイズやビスタサイズの映像を表示するときに使います。映像と画面のサイズが異なる場合、映像の横部分と画面の横縦部分の大きさを合わせて表示されます。上下の余った部分が黒く表示されます。

字幕・音声・アングルを切り替える

DVDビデオの字幕言語・音声言語・アングルを切り替える

DVDに字幕、複数の音声およびアングルが収録されている場合のみ有効です。

ここまでの操作



1 アングル、字幕、音声 のいずれかをタッチする



タッチするたびに字幕言語、音声言語、アングルの設定が切り替わります。



- 初期設定 (P.118) で設定できる言語以外の言語が収録されている場合は、「その他」と表示されます。
- 「OFF」を表示させると、字幕を消せます。

2 戻る をタッチする

設定が確定し、映像画面に戻ります。

DVD-VRの字幕表示・音声を切り替える

DVDに字幕、複数の音声が発録されている場合のみ有効です。

ここまでの操作



1 字幕 または 音声 をタッチする



タッチするたびに、字幕または音声の設定が切り替わります。



- 画面上部に、現在の設定が表示されます。
- タッチすることにより音声は以下のとおりに切り替わります。
 ストリーム1→ストリーム2→出力チャンネルLL→出力チャンネルRR→出力チャンネルLR→ストリーム1

2 戻る をタッチする

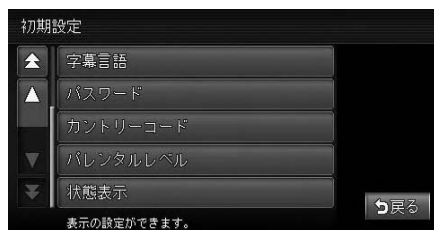
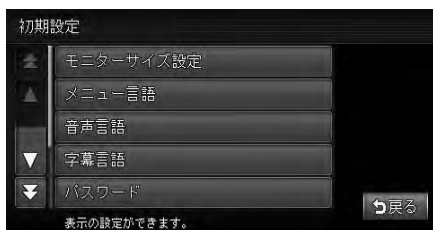
設定が確定し、映像画面に戻ります。

DVDビデオの初期設定を変更する



- 初期設定画面から各設定画面に移動すると、DVDの再生は停止します。設定終了後は、DVDの再生が始まりますが、設定内容によって再生が始まる位置が異なります。DVDの先頭から再生されることもあれば、設定前の場所から再生が始まることもあります。
- 以下の初期設定画面で何もせずに画面を閉じると、設定前の場所から再生が始まります。

ここまでの操作



設定項目	設定の内容	参照ページ
モニターサイズ設定	優先的に再生するモニターサイズを切り替える	P.119
メニュー言語	メニューで優先表示される言語を切り替える	P.120
音声言語	再生時に優先される音声言語を切り替える	P.120
字幕言語	優先的に表示される字幕言語を切り替える	P.120
パスワード	視聴制限の設定に必要なパスワードを設定・編集する	P.122
カントリーコード	視聴制限レベルを適用する国を設定する	P.123
パレンタルレベル	成人向けの内容や暴力シーンなど、子供に見せたくない場合に視聴制限をかける（視聴制限対応ディスクのみ）	P.123
状態表示	再生状態（タイトル番号、チャプター番号、再生時間）を表示するかしないかを設定する	P.124

モニターサイズを設定する

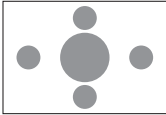
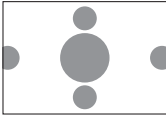



- 収録されているモニターサイズは、ディスクごとに異なります。モニターサイズを「パンスキャン」または「レターボックス」に設定しても、ディスクによっては自動的にどちらかで再生される場合があります。

ここまでの操作



優先的に再生する画面サイズをタッチします。

設定項目	設定の内容
ワイド 	映像が画面にぴったり納まります。映像と画面の比率が違う場合は、変形して表示されます。映像が切れる部分はありません。
パンスキャン 	画面の上下と映像の高さが合わせて表示されます。映像と画面の比率が違う場合は、映像の左右が切れて表示されます。
レターボックス 	画面の横幅と映像の幅が合わせて表示されます。映像と画面の比率が違う場合は、上下に黒い帯が表示されます。

言語を設定する

メニュー・音声・字幕言語を設定する

再生時に優先する言語を、メニュー言語、音声言語、字幕言語のそれぞれについて設定できます。ここでは、メニュー言語の設定を例として説明しています。



• 本設定は、DVD再生時に優先する言語の設定です。必ずしも切り替えた言語で再生されるわけではありません。

ここまでの操作



1 言語をタッチする



• 英語、フランス語、スペイン語、中国語、日本語から選択できます。

パレンタルレベルとパスワードを設定する

パレンタルレベルとは、お子様に対しDVDの視聴を制限させるために設定するものです。パレンタルレベルの設定には、パスワードが必要です。

■視聴制限（パレンタルレベル）について

DVDビデオには、「視聴制限（パレンタルレベル）」が設定されているものがあります。パレンタルレベルはレベル1～8まであり、数字が小さくなるほど視聴制限が厳しくなります。レベル1が最も制限が厳しいパレンタルレベルです。視聴制限が設定されているディスクは、本機のパレンタルレベル設定によっては再生できないことがあります。

例：DVDの視聴制限がレベル3の場合

本機で設定したパレンタルレベルが、「レベル4～8」の場合のみ、再生できます。

本機で設定したパレンタルレベルが、「レベル1～3」の場合は、再生しようとすると「パレンタルレベル変更」の警告メッセージが表示されます。

また、パレンタルレベルは国によって異なるため、カントリーコードを設定しないと、視聴制限がうまく機能しない場合があります。



- 初期設定は「パレンタルレベルOFF」です。
- パレンタルレベルは、DVDのパッケージなどに記載されています。パッケージにパレンタルレベルが記載されていないディスクは、パレンタルレベルを設定しても視聴制限はかけられません。



- 初めてパレンタルレベルの設定をする場合は、「パスワードを設定・変更する」(P.122)をご覧ください。

DVDビデオの初期設定を変更する

パスワードを設定・変更する

視聴制限の設定に必要なパスワードを設定・変更します。



- パスワードの初期設定は「0000」です。

ここまでの操作



- 1 パスワード（新規パスワード設定の場合は任意の4桁）を入力して、**決定** をタッチする



入力されたパスワードは、「※※※※」と表示されます。

新規パスワード設定の場合は手順4に進みます。

- 2 **パスワードの変更** をタッチする



- 3 新しいパスワードを入力して、**決定** をタッチする



- 4 もう一度同じパスワードを入力して、**決定** をタッチする
新しいパスワードが設定されます。

パスワードを消去する

設定したパスワードを消去します。

ここまでの操作



- 1 パスワードを入力して、**決定** をタッチする
パスワードが一致すると、パスワード編集画面が表示されます。

- 2 **パスワードの消去** をタッチする

- 3 **はい** をタッチする
パスワードが消去されます。

パレンタルレベルを設定する

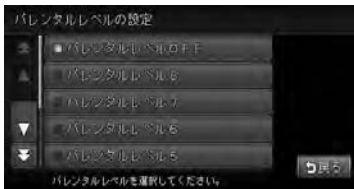


- パレンタルレベルを変えるとき警告で「パレンタルレベル変更」をタッチしても、同様の操作ができます。

ここまでの操作



- 1 パスワードを入力して、**決定** をタッチする
- 2 設定したいパレンタルレベルをタッチする



パレンタルレベルが設定されます。



- **パレンタルレベルOFF** をタッチすると、パレンタルレベルは設定されず、すべてのDVDビデオのパレンタルレベルに対して視聴制限が解除されます。

カントリーコードを設定する

パレンタルレベルは国によって内容が異なります。本機でパレンタルレベルを正しくお使いになるには、DVDのカントリーコードを設定する必要があります。カントリーコードは、国を識別するためのコードです。カントリーコードについて詳しくは、「カントリーコード一覧」(P.261)をご覧ください。



- 初期状態では、「7480 (JAPAN)」が設定されています。

ここまでの操作



- 1 DVDに記録してある国（または地域）のカントリーコードを入力して、**決定** をタッチする



カントリーコードが設定されます。

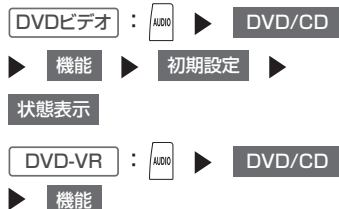
常に再生状態を表示する

この設定は、DVD-VRでも行えます。

状態表示を設定する

DVDの再生画面に、常に再生状態（チャプター番号、再生時間）を表示できます。

ここまでの操作



1 常に状態を表示する (DVDビデオ)、または 状態表示 (DVD-VR) をタッチする

DVDビデオ



DVD-VR



再生状態の表示が設定されます。



- 再生状態の表示を解除する場合は、常に状態を表示する または 状態表示 を再度タッチします。
- リア席モニター接続時、再生状態を表示するよう設定すると、リア席モニターにも再生状態が表示されます。なお、映像をリア席モニターから本機の画面に切り替えたときに、リア席モニターの再生状態の一部が本機の画面に残ることがあります。

再生状態表示画面





オーディオ・ビジュアル編

CD・MP3・WMAの音楽を聴く


本機では、CD、MP3／WMA形式の音楽データを保存したディスク、SDカード、USBメモリーをお楽しみいただけます。

CD、MP3、WMAの基本的な操作方法については、**Q-P.101～Q-P.106**をご覧ください。また、USBメモリーの操作方法については、**P.145**からの説明をご覧ください。

本機で使えるCD	126
本機で使えるMP3・WMA	127
いろいろな再生方法	131
情報を表示する	134

本機で使えるCD

再生できるディスク

- 音楽CD ( のついているディスク)
- CD-TEXTディスク
- CD-Extraディスク ※ただし音楽CDとして
- Super Audio CD ※ハイブリッドディスクのCD層のみ
- パソコンで、正しいフォーマットで記録されたディスク※¹
- 音楽CDレコーダーで録音した音楽用CD-R、CD-RWディスク※²
- コピーガード付きCD※³

※¹ アプリケーションソフトの設定や環境によっては再生できない場合があります。詳しくはアプリケーションソフトの発売元にお問い合わせください。

※² 正常に再生できないこともあります。またCD-RWディスクは、ディスク挿入後から再生まで、通常のCDやCD-Rより時間がかかります。

※³ 再生できないこともあります。

再生できないディスク

- 8cmディスク
- 異形のディスク
- MIX MODE CD
- CD-DA以外のディスク (オーバーバーンCDなど)
- DTS CD
- ビデオCD
- ファイナライズしていないCD-R、CD-RWディスク
- デュアルディスク (Dual Disc) は、ディスクに傷がついたり、ディスクが取り出せなくなる可能性があるので使用しないでください。
- ラベルを貼り付けたディスクは、ディスクが取り出せなくなる可能性があるので使用しないでください。

本機で使えるMP3・WMA

MP3とは、MPEG Audio Layer 3の略称で、音声圧縮技術に関する標準フォーマットです。MP3ファイルは、元の音楽データを約1/10サイズに圧縮したものです。

WMAとは、Windows Media Audioの略称で、マイクロソフト社独自の音声圧縮フォーマットです。本機では、MP3またはWMAファイルの記録されたCD-ROM、CD-R、CD-RW、DVD-R、DVD-RW、SDカード、USBメモリーを再生することができます。

再生できるMP3・WMAファイル

- 記録メディア^{※1}：
CD-ROM、CD-R、CD-RW、DVD-R、DVD-RW、SDカード、SDHCカード、USBメモリー
- 記録フォーマット：
CD：ISO9660レベル1／レベル2、Joliet、Romeo
DVD：UDF (Ver1.02のみ)、UDF-ブリッジ、ISO9660レベル1／レベル2、Romeo
SDカード／USBメモリー：FAT16、FAT32
- パケットライトには非対応
- 拡張子が.MP3、または.WMAのファイル（雑音や故障の原因となるため、MP3／WMAファイル以外には「.MP3」「.WMA」の拡張子をつけないでください）
※1 マルチセッション対応で記録したディスクは、最大40セッションまで再生可能です。（DVD-R／RWはマルチセッション未対応）

MP3ファイルについて

- ID3-Tag：Ver1.x、2.xのalbum（Disc Titleとして表示）、track（Track Titleとして表示）、artist（Track Artistとして表示）の表示に対応
- エンファシス：44.1kHzのファイル再生時のみ対応
- 再生可能なサンプリング周波数
MPEG1：44.1kHz/48kHz/32kHz
MPEG2：22.05kHz/24kHz/16kHz
※音質面においては44.1kHz以上を推奨
- 再生可能なビットレート
MPEG1：32kbps～320kbps
MPEG2：8kbps～160kbps
※音質面においては128kbps以上を推奨
- MP3i（MP3 interactive）、mp3 PROフォーマット非対応
- VBR（バリエابلビットレート）で記録されたMP3ファイルは音飛びする場合があります。
- 記録時間の短いファイルは再生できないことがあります。
- ディスク、SDカードまたはUSBメモリー内に音楽データ以外の大きなデータが入っていると、曲が再生できない場合があります。
- 低ビットレートのファイルを早送り・早戻しすると、再生時間の表示がずれることがあります。
- Windows Media Player、iTunes以外のTAG編集ソフトでTAG情報を変更すると、TAGが正常に表示されないことがあります。

WMAファイルについて

- ・作成するパソコンのソフトウェアによっては、アルバム名が文字化けすることがあります。
- ・WMA9 Professional、WMA9 Voice、WMA9ロスレスフォーマット非対応。
- ・ディスクまたはSDカード／USBメモリー内に音楽データ以外の大きなデータが入っていると、曲が再生できない場合があります。
- ・再生可能なサンプリング周波数は記録メディアによって異なります。下記の表をご参照ください。
- ・再生可能なビットレートは記録メディアによって異なります。下記の表をご参照ください。

	ディスク	SDカード	USBメモリー
ビットレート (kbps)	サンプリング周波数 (kHz)	サンプリング周波数 (kHz)	サンプリング周波数 (kHz)
192	48/44.1	48/44.1	48/44.1
160	48/44.1	48/44.1	48/44.1
128	48/44.1	48/44.1	48/44.1
96	44.1	48/44.1	44.1
80	44.1	44.1	44.1
64	44.1	48/44.1/32	44.1/32
48	44.1/32	44.1/32	44.1/32
44	—	32	32
40	32	32	32
36	—	32	32
32	44.1/32/22.05	44.1/32/22.05	44.1/32/22.05
22	22.05	32/22.05	—
20	32/22.05	44.1/32/22.05/16	—
16	22.05	22.05/16	—
VBR*	48/44.1	48/44.1	44.1

※ビットレートによって、部分的に音飛びや音切れがしたり、ノイズが生じる場合があります。

MP3・WMAの記録メディアについて

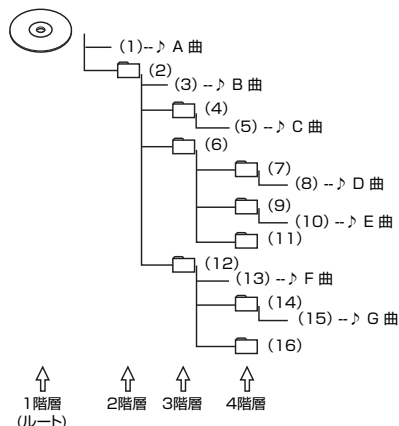
- ディスク内の最大フォルダ・ファイル・トラック数：
 - フォルダ：255（ルートを含む）
 - ファイル：512（1フォルダあたり最大255）
 - SDカード内の最大フォルダ・ファイル・トラック数：
 - フォルダ：500
 - ファイル：4000（1フォルダあたり最大99）
 - USBメモリー内の最大フォルダ・ファイル・トラック数：
 - フォルダ：500
 - ファイル：8000（1フォルダあたり最大：255）
- ※32GBまでの容量の、SDカードまたはUSBメモリーに対応

ディスクのフォルダ構成

MP3/WMAファイルを記録したディスクのイメージ（例：1～4階層の場合）は、下図のようになります。

曲のないフォルダは飛ばして再生順序を決めます。

下図の場合の再生順序は、(1) → (3) → (5) → (8) → (10) → (13) → (15) となります。

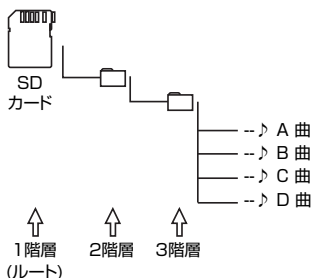


- ディスクの場合、8階層（ルートディレクトリを含む）までのMP3/WMAファイルの再生に対応していますが、多くのフォルダを持つ場合は再生がはじまるまでに時間がかかります。

SDカード／USBメモリーのフォルダ構成

MP3／WMAファイルを記録したSDカードのイメージは、下図のようになります。SDカードでは3階層目にあるMP3／WMA音楽ファイルのみが認識されます。曲のないフォルダは飛ばして再生順序を決めます。

下図の再生順序は、アルファベット順となります。



USBメモリーでは階層の指定はなく、MP3／WMA音楽ファイルのみが認識されます。

- MP3／WMAファイルを含まないフォルダは認識されません。
- USBメモリーの場合、8階層（ルートディレクトリを含まない）までのMP3／WMAファイルの再生に対応していますが、多くのフォルダを持つ場合は再生がはじまるまでに時間がかかります。
- SDカードの場合、3階層目にあるMP3／WMAファイルの再生のみに対応しています。
- SDカードで1つのフォルダに99以上のトラックが入っている場合、またはUSBメモリーで1つのフォルダに255以上のトラックが入っている場合はパソコンでデータが書き込まれた順序により、認識されるトラックは変わります。
- SDカード／USBメモリーで1つのフォルダにMP3／WMAファイル以外のファイルを入れた場合、認識されるトラック数が少なくなることがあります。
- SDカード／USBメモリーの各階層で認識可能なフォルダ数は最大500（2階層：アーティスト名フォルダ、3階層：アルバム名フォルダとも）になります。

本機でMP3/WMAを再生するためのご注意

- 最大数を超えてフォルダ・ファイル・トラックが記録されているディスク、SDカード、USBメモリーの場合、超過しているフォルダ・ファイル・トラックは本機では認識されません。また、本機でのフォルダおよびファイルの表示順序は、パソコンでの表示順序とは異なります。
- フォルダを含めたファイル名が長い場合、そのファイルは再生できないことがあります。
- MP3／WMAのファイル名を表示する場合、ファイル名の長さによってはファイル名の最後に拡張子の一部（./m/.mp/.W/.WM）が残る場合があります。その場合には、作成するファイル名の長さを調整してください。（拡張子の一部が残るファイル名の長さは使用するファイルシステムによります）
- SDカード、USBメモリーとも、著作権保護された音楽ファイルは本機では再生できません。

いろいろな再生方法



- 再生中のディスクおよびトラックタイトルなどの情報は、本機内にあるGracenote Music Recognition ServiceSMの情報です。またCD-TEXT対応ディスクであれば、ディスク内の情報を表示できます。
- Gracenote Music Recognition ServiceSMからタイトル情報が得られない場合や、CDからCD-TEXTの情報が得られない場合は、トラックタイトルは表示されず、「Track01」などの番号が表示されます。
- Gracenote[®] Music Recognition ServiceSMについては、「Gracenote[®] Music Recognition ServiceSMについて」(P.266)をご覧ください。
- ノンストップCD (トラックとトラックがつながっているCD) を再生すると、トラックとトラックの間に2～3秒の無音部が空いて再生されます。

フォルダ、トラックを選ぶ

タイトルリストから選択したり、番号を入力してフォルダやトラックを再生します。



- 本機では、CDを録音して再生できるMUSIC RACKという機能があります。初期状態では、CDを挿入すると、自動的に録音が始まるよう設定されています。

タイトルリストから再生する

ここまでの操作



- 1 フォルダをタッチする (MP3/WMA再生時のみ)

フォルダリスト



選択したフォルダの先頭から再生がはじまります。

聴きたいトラックを指定する場合、またはフォルダが設定されていない場合は、手順2に進んでください。

2 トラックをタッチする

トラックリスト



選択したトラックから再生がはじまります。

番号を入力して再生する

フォルダ番号やトラック番号を入力して、目的のトラックを検索します。

ここまでの操作



- 1 フォルダリスト画面で **番号指定** をタッチする (MP3/WMA再生時のみ)

フォルダ番号を指定しない場合は、手順3に進んでください。

- 2 フォルダ番号を入力して、**決定** をタッチする (MP3/WMA再生時のみ)



入力した番号を先頭にしたフォルダリストが表示されます。

- 3 フォルダをタッチする (MP3/WMA再生時のみ)

トラックリストが表示され、選択したフォルダの先頭から再生がはじまります。

- 4 トラックリスト画面で **番号指定** をタッチする

- 5 トラック番号を入力して、**決定** をタッチする



入力した番号を先頭にしたトラックリストが表示されます。

- 6 聴きたいトラックをタッチする
選択した曲の再生がはじまります。

リピート・スキャン・ランダム再生をする

リピート・スキャン・ランダム再生をする

ここまでの操作



1 目的の項目をタッチする

CD表示画面



REPEAT :
現在再生中のトラックのみをリピート再生します。

SCAN :
現在再生中のCDの各トラックの出だしを10秒間ずつ再生します。

RANDOM :
現在再生中のCDの全トラックをランダムに再生します。

MP3 / WMA表示画面



REPEAT :
現在再生中のフォルダ全体、またはトラックのみをリピート再生します。

SCAN :
各フォルダの先頭トラックの出だし、または現在再生中のフォルダの各トラックの出だしを10秒間ずつ再生します。

RANDOM :
全フォルダの全トラック、または現在再生中のフォルダの全トラックをランダムに再生します。

情報を表示する

トラック情報、CD-TEXT、TAG情報を表示する

再生中のトラック情報を表示する

再生中のトラックの情報を表示できます。

ここまでの操作



1 フォルダをタッチする (MP3/WMA再生時のみ)

2 TAG情報 (MP3/WMA) または トラック情報 (CD) をタッチする

トラック情報画面が表示されます。

CD表示画面



MP3/WMA表示画面



CD-TEXT・TAG情報を優先して表示する

リスト画面以外のタイトル表示部にCD-TEXTやTAG情報を表示できます。

CDの場合：

CD-TEXTがある場合、優先的にCD-TEXTが表示されます。

MP3/WMA音楽データの場合：

TAG情報がある場合は、優先的にTAG情報が表示されます。

TAG情報がない場合は、「タイトルなし」と表示されます。

ここまでの操作



1 初期設定 をタッチする

2 CD-TEXTを優先して表示する

(CD) または

TAG情報を優先して表示する

(MP3/WMA) をタッチする



CD-TEXTまたはTAG情報が優先して表示されます。

※画面はCDのものです。



• 優先表示を解除する場合は、同じ操作をもう一度行います。



オーディオ・ビジュアル編

MUSIC RACKを使う

本機では、CDを録音して再生できる、MUSIC RACKをお楽しみいただけます。

MUSIC RACKの基本的な操作方法については、**Q-P.107～Q-P.112**をご覧ください。

MUSIC RACKについて	136
録音設定を変更する	137
いろいろな再生方法	139
アルバム・トラック情報を編集する	142

MUSIC RACKについて

MUSIC RACKの仕様は、以下のとおりです。

録音可能トラック数	最大1000トラック（アルバムは最大200枚、1つのアルバムに収録できるトラック数：最大99トラック） ※ただし、メモリー容量の範囲内のみ（*）
録音できる音源音楽	音楽CDのみ（**）
音質	ATRAC3という音声圧縮技術を採用しています。 CDの音質を損なわず、容量を約1/10（高音質モード）に圧縮できます。

（*）メモリー容量については、「本機の情報を見る」（P.61）をご覧ください。

（**）録音できるCDについては、「本機で使えるCD」（P.126）をご覧ください。

本機は、SCMS（シリアルコピーマネージメントシステム：Serial Copy Management System）の規格に準拠したデジタルオーディオ機器です。SCMSでは、各種デジタルオーディオ機器の間で「デジタル信号をデジタル信号のまま録音する」というデジタル信号同士のコピーを<1世代まで>と規制しております。

したがって、以下の操作を本機で行えません。

- 本機に録音したCDの曲をデジタル出力、デジタルコピーすること
- デジタル録音したCD-RとCD-RWおよびコピーの禁止されているCDを録音すること

タイトル表示について

CDを本機に録音すると、本機内蔵のGracenote Music Recognition ServiceSMのデータベースからタイトル・読み・アーティスト名・ジャンルの情報が取得され、画面上に表示されます。

情報を取得できなかったCDには録音した日付が表示されます。

また、CDや曲によっては、情報の取得ができない場合があります。



- Gracenote Music Recognition ServiceSMのデータベースは、インターネット上のGracenoteデータベースから最新の情報に更新できます。
詳しくは、「アルバム情報の更新について」（P.221）をご覧ください。

録音設定を変更する

MUSIC RACKにCDを録音するには、自動録音、手動録音の2つの方法があります。初期状態では、CDを挿入すると自動的に録音を開始する自動録音に設定されています。



- 録音中はSDカードの再生は行えません。

自動録音の設定を変更する

録音速度を変更する

ここまでの操作



各種設定

1

録音設定 をタッチする



2

挿入と同時に録音:1倍速

挿入と同時に録音:2倍速

をタッチする



挿入と同時に録音:1倍速 :

CD再生時に1倍速でCDが録音されます。

挿入と同時に録音:2倍速 :

CD再生時に2倍速でCDが録音されません。2倍速で録音中は、CDを聴くことはできません。



- **長時間録音** をタッチすると、長時間録音モード (LP) に設定されます。工場出荷時は、高音質モード (HQ) に設定されています。長時間録音モードは、高音質モードに比べ録音曲数は多くなりますが、音質は低くなります。

高音質モードのビットレート:

132kbps

長時間録音モードのビットレート:

66kbps

- 長時間録音モード (LP) で録音された曲を再生すると、アルバム/トラック番号の下に「LP」と表示されます。
- 録音可能なトラック数は、高音質モードで最大500トラック、長時間録音モードで最大1000トラックです。アルバム数、トラック数、録音可能容量 (2G byte) のいずれかが超えた場合は録音できません。

手動録音の設定をする

CDを再生中に手動でMUSIC RACKに録音するよう設定できます。

手動録音に設定する

ここまでの操作



各種設定

1 **録音設定** をタッチする

2 **手動で録音** をタッチする
手動録音に設定されます。

手動で録音する

CDを再生中に、手動でMUSIC RACKに録音できます。

- 1 CD再生中に **REC** をタッチする
- 2 希望の録音モードをタッチする



録音が始まります。

全曲録音 :

再生中のCDのすべてのトラックを録音できます。確認画面で **はい** をタッチすると、アルバムの先頭から録音されていないトラックの再生・録音が始まります。

現在の曲を録音 :

再生中のトラックを録音できます。トラックの先頭に戻り、再生・録音が始まります。

曲を指定して録音 :

録音したいトラックをリストから選択して録音できます。複数のトラックを選択できます。リストからトラックを選択して **決定** をタッチすると、先頭に近い曲から順に再生・録音が始まります。

1倍速で録音 :

1倍速で録音します。

2倍速で録音 :

2倍速で録音します。録音中は、CDを聴くことはできません。

いろいろな再生方法

アルバム・トラックを選ぶ

リストから再生する

MUSIC RACKのリストからアルバムやトラックを選択して再生できます。

ここまでの操作



1 アルバム名をタッチする

アルバムリスト



トラックリストが表示され、選択したアルバムの先頭から再生が始まります。

2 トラックをタッチする

トラックリスト



選択したトラックが再生されます。

アーティスト名から再生する

ここまでの操作



1 アーティスト検索 をタッチする

2 アーティスト名をタッチする

3 アルバムをタッチする

トラックリストが表示され、選択したアルバムの先頭から再生が始まります。

条件から複数のアルバムを選んで再生する

複数のアルバムを指定して再生できます。アルバムリストからアルバムを指定する方法とアーティストのすべてのアルバムを指定する方法があります。

ここまでの操作



- 1 **編集** をタッチする
- 2 **選択演奏** をタッチする
- 3 **アルバム選択** または **アーティスト選択** をタッチする



アルバム選択 :

リスト表示されたアルバムから複数のアルバムを指定できます。

アーティスト選択 :

リスト表示されたアーティストのすべてのアルバムを指定できます。



- すでに**選択演奏**が設定されているときは、**選択演奏解除**が表示されます。**選択演奏解除**をタッチすると、**選択演奏**を中止します。

4 アルバムまたはアーティスト名を選択して、**決定** をタッチする



選択した項目が再生されます。

リピート・スキャン・ランダム再生をする

リピート・スキャン・ランダム再生をする

ここまでの操作



1 目的の項目をタッチする



選択した動作での再生が始まります。

REPEAT :

現在再生中のアルバム全体、またはトラックのみをリピート再生します。

SCAN :

各アルバムの先頭トラックの出だし、または現在再生中のアルバムの各トラックの出だしを10秒間ずつ再生します。

RANDOM :

全アルバムの全トラック、または現在再生中のアルバムの全トラックをランダムに再生します。

アルバム・トラック情報を編集する

アルバムを編集する

アルバム情報を表示する

MUSIC RACKで再生中のアルバム名とアーティスト名を表示できます。

ここまでの操作



- 1 **アルバム情報** をタッチする
アルバム情報が表示されます。



アルバム情報を編集する

ここまでの操作



- 1 **編集** をタッチする
- 2 **情報編集** をタッチする
- 3 **編集したいアルバム** をタッチする



- 4 **アルバム名** または **アーティスト** をタッチする



- 5 **アルバム名** または **アーティスト名** を入力して、**決定** をタッチする
アルバム情報が編集されます。



- アルバム名、アーティスト名は全角・半角で20文字まで入力できます。

不要なアルバムを削除する



• 一度削除したアルバムは元に戻せません。

ここまでの操作



MUSIC RACK ▶

リスト

- 1 **編集** をタッチする
- 2 **アルバム削除** をタッチする
- 3 削除したいアルバムを選択して、**決定** をタッチする



• 複数のアルバムを選択できます。

- 4 **はい** をタッチする
選択したアルバムが削除されます。

アルバムの再生順序を並べ替える

ここまでの操作



MUSIC RACK ▶

リスト

- 1 **編集** をタッチする
- 2 **アルバム並替** をタッチする
- 3 順序を変えたいアルバムをタッチする



- 4 移動先の **◀移動** をタッチする



- 5 **決定** をタッチする
確認メッセージが表示され、アルバムリスト画面に戻ります。
アルバムリスト画面に戻ると、先頭のアルバムから再生が始まります。

トラックを編集する

トラック情報を編集する

トラック名を編集できます。

ここまでの操作



- 1 編集したいアルバムをタッチする
- 2 **編集** をタッチする
- 3 **情報編集** をタッチする
- 4 編集したいトラックをタッチする



- 5 **トラック名** をタッチする



- 6 トラック名を入力して、**決定** をタッチする

トラック情報が編集されます。



- トラック名には全角・半角で20文字まで入力できます。

不要なトラックを削除する



- 一度削除したトラックは元に戻せません。

ここまでの操作



- 1 編集したいアルバムをタッチする
- 2 **編集** をタッチする
- 3 **トラック削除** をタッチする
- 4 削除したいトラックを選択して、**決定** をタッチする



- 複数のトラックを選択できます。

- 5 **はい** をタッチする
選択したトラックが削除されます。



オーディオ・ビジュアル編

USBメモリーの オーディオを聴く

お手持ちのUSBメモリーと本機をつないで、MP3/WMAの音楽を聴くことができます。

USBメモリーの音楽を聴く 146

USBメモリーの音楽を聴く

別売のUSBケーブルにUSBメモリーを接続することにより、パソコンで編集したMP3/WMA形式の音楽データを本機で再生することができます。

音楽データの保存方法について

USBメモリーには、MP3またはWMA形式の音楽ファイルを保存してください。

USBメモリー内の階層は、9階層（ルートを含む）までです。

アーティスト名、アルバム名、トラック名の文字数合計は半角で250文字以内にしてください。



- USBメモリーに保存できる音楽データの最大数について詳しくは、「本機で使えるMP3・WMA」(P.127)をご覧ください。
- 音楽データを保存する際の注意事項について詳しくは、「本機で使えるMP3・WMA」(P.127)をご覧ください。

USBメモリーについて

- マスストレージクラスのUSBフラッシュメモリー (USBメモリーデバイス) に対応しています。
- 下記のようなUSBメモリーには対応していません。
 - パーティションが複数あるUSBメモリー
 - 電流が500mAを超えるUSBメモリー
 - パソコンに接続した際、ドライバを要求されるUSBメモリー
 - セキュリティ機能など、特殊な機能が付いているUSBメモリー
 - SONY製Walkmanには非対応
 - その他一部再生できないマスストレージクラスのUSBフラッシュメモリーがあります。
- USBメモリーに記憶されている音楽データを本機で編集することはできません。
- USBハブ、USB延長ケーブルを介した接続には対応していません。
- USBメモリーの音楽再生中にUSBメモリーを取り外さないでください。
- 本機で再生する音楽データは必ずバックアップをしてください。使用状況によってはUSBメモリーの保存内容が失われる恐れがあります。消失した音楽データについては補償できませんので予めご了承ください。
- 32GBまでの容量の、USBメモリーに対応

操作画面について

→ ここまでの操作

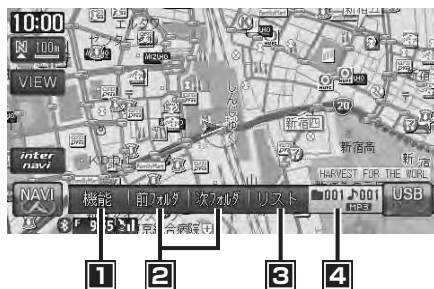
USBメモリーを接続する



USB/iPod



・USBケーブルにiPodを接続している場合は、USBメモリーはご利用になれません。




■この画面からできる操作

- 1 リpeat再生、スキラン再生、ランダム再生をするための
機能メニューを表示する P.133
- 2 再生するフォルダを切り替える Q-P.106
- 3 フォルダリストを表示する P.131
- 4 再生中のフォルダ、トラックの番号を表示する

USBメモリーのオーディオを再生する

再生する

ここまでの操作

USBメモリーを接続する 



1 USB/iPod をタッチする

USBメモリーのオーディオが再生されます。





- USBメモリー内のファイルは、ファイル名順でのみ再生できます。再生順序を変更することはできません。ただし、ファイル名の先頭に数字を入力すれば、数字順に並べ替えることができます。

早送り／早戻しする

1  (早送り) または  (早戻し) を押し続ける






- 、 から指を離すと、通常の再生に戻ります。

前／次のトラックを再生する

1  または  を押す



-  を押すとトラックの先頭に戻り、さらに  を押すごとに前のトラックに移動します。
-  を押すごとに次のトラックに移動します。

以降の操作はメモリーカードからの再生と同様です。下記のページを参照して操作を行ってください。

- フォルダ／トラックリストからダイレクトに選曲する…………… P.131
- フォルダ番号／トラック番号を選んで再生する…………… P.132
- リピート、スキャン、ランダム再生をする…………… P.133
- トラックの情報を表示する…………… P.134
- TAG情報を表示する …………… P.134



オーディオ・ビジュアル編

iPod[®]を聴く / iPod[®]ビデオを観る

本機では、iPod（別売）を接続して、iPod内の音楽データやビデオ映像をお楽しみいただけます。

iPodの基本的な操作方法については、**Q-P.113**～**Q-P.116**をご覧ください。

接続できるiPod	150
いろいろな再生方法	152
情報を表示する	155
iPodの接続方法を切り替える	156

接続できるiPod



本機は第5世代iPod、iPod classic、iPod nano、iPod touchに対応しています。詳細は以下の表をご覧ください。iPodは本機に付属していません。お手持ちのiPodをお使いください。iPodを本機に接続するには、iPodに付属のiPodケーブルを、USB接続コード（別売）のUSB端子に接続します。iPodビデオを観るには、別売のUSB接続コード、VTRコードに加え、お客様に別途ご用意いただくビデオ出力対応のドックコネクタ接続ケーブルが必要です。

また、接続可能なiPodについての最新の情報は、弊社ホームページをご確認ください。

<http://www.honda.co.jp/navi/support/ipodlist/>

接続可能なiPod	備考
iPod（第5世代）	ビデオ再生可
iPod classic（80GB、120GB、160GB） ^{*1}	ビデオ再生可
iPod classic(2009) ^{*2}	ビデオ再生可
iPod nano（第1世代、第2世代）	
iPod nano（第3世代、第4世代 ^{*1} ）	ビデオ再生可
iPod nano（第5世代）	ビデオ再生可
iPod touch（第1世代 ^{*3、*4} ）	ビデオ再生不可
iPod touch （第2世代：8GB、16GB、32GB、64GB）	ビデオ再生可

※1 ビデオファイルのみ保存している場合、iPodが認識されない場合があります。一つでも音楽ファイルを保存すると解消されます。

※2 ゲームプレイ中や保存曲数が最大においてのシャッフル再生時などでの接続は、状況によって不安定となる場合があります。負荷のかかる動作時には接続しないでください。

動作が不安定となった場合、iPodをケーブルから外し、iPodを複数回リセットしてください。もしナビ・オーディオ側が不安定な場合は、車両のキーを一度OFFにしてからONしてください。

※3 ファームウェア2.0以降では、ビデオを再生することができます。ファームウェアが2.0より古い場合は、ミュージックモードでのみお使いください。

※4 「On-The-Go」は再生できません。iTunesと同期後はプレイリストとして再生できます。



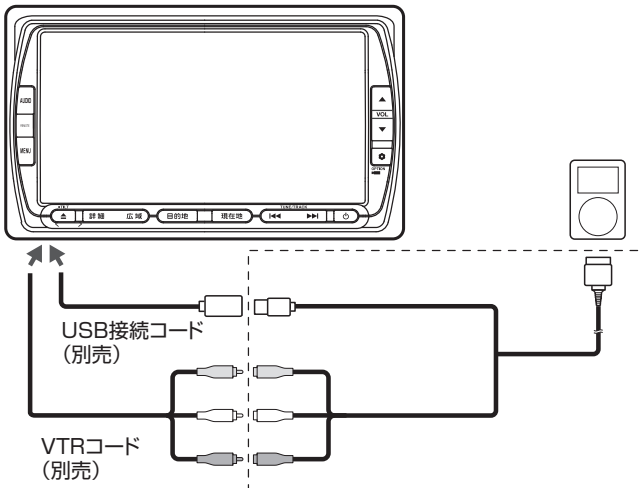
- iPodの動作が停止した場合、カテゴリーリストから曲やビデオを選択することによって操作可能になる場合があります。
- iPodの機種によって再生対象の曲数が多い場合、タイトル表示やリスト表示ができない場合があります。
- iPodのトラックリピート機能を設定している場合は、正しく動作しない場合があります。
- iPodのシャッフル機能を設定していると正しく動作しない場合があります。その場合は、シャッフル機能を設定を解除してからご利用ください。
- エラーメッセージが表示された場合は、一度本機からiPodを取り外して再度接続してください。
- iPodが操作不能になった場合は、iPod本体をリセットし、再度接続してください。

リセット方法の例

- iPodの場合：
「センター」ボタンと「メニュー」ボタンをAppleのロゴが表示されるまで同時に押し続けます。
 - iPod touchの場合：
「スリープ/スリープ解除」ボタンと「ホーム」ボタンを、Appleのロゴが表示されるまで同時に押し続けます。
- ※iPodをリセットして再接続しても動作しない場合は、リセット後、iPod単体で動作することを確認してから接続するようにしてください。
- 車のエンジンを切ったあとは、必ずiPodを取り外してください。接続したままではiPodの電源が切れない場合があるため、iPodの電源を消耗する恐れがあります。

iPodビデオを接続する

本機でiPodビデオを観るには、以下のイラストのように接続し、「接続方法を切り替える」(P.156)で、「USB+VTR接続 (アナログ音声)」に設定してください。



Apple純正「AppleコンポジットAVケーブル」などのビデオ出力対応ドックコネクタ接続ケーブル(別売)

いろいろな再生方法

トラックを選ぶ

タイトルリストから再生する

ここまでの操作



USB/iPod



リスト

1 トラックをタッチする



選択したトラックが再生されます。

トラック番号を入力して再生する

トラック番号を指定して、iPodのトラックを再生できます。

ここまでの操作



USB/iPod



リスト

1 番号指定 をタッチする

2 トラック番号を入力して、決定をタッチする



入力した番号を先頭にしたトラックリストが表示されます。

3 聴きたいトラックをタッチする 選択した曲の再生がはじまります。

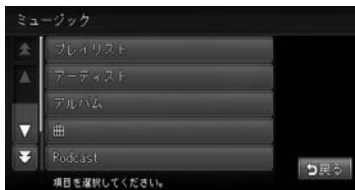
条件を指定して再生する

さまざまな条件からiPodのトラックを探して再生できます。

ここまでの操作



1 お好みの項目をタッチする



- 選択できる項目は以下のとおりです。
プレイリスト／アーティスト／アルバム／曲／Podcast／ジャンル／作曲家

2 さらにお好みの項目をタッチする



※画面は **アルバム** をタッチした場合のものです。

3 聴きたいトラックをタッチする



選択した曲の再生がはじまります。

■コントロールバーをカスタマイズする

AVコントロールバーの中央にあるタッチキー（初期状態ではプレイリスト）に、他の機能を割り付けられます。

ここまでの操作



1 機能の選択 をタッチする



- () 内には、現在の設定項目が表示されます。

2 割り付けたい機能をタッチする



選択した機能がコントロールバーに割り付けられます。



- 割り付けられる機能は以下のとおりです。
プレイリスト／アーティスト／アルバム／曲／Podcast／ジャンル／作曲家

リピート・シャッフル再生をする

リピート・シャッフル再生をする

ここまでの操作



USB/iPod



機能

1 目的の項目をタッチする

iPodオーディオ画面



iPodビデオ画面



選択した動作での再生が始まります。

REPEAT :

現在再生中のトラックのみをリピート再生します。

SHUFFLE :

ALBUM をタッチすると、すべてのアルバムをランダムに再生します。アルバム内のトラックは順番に再生されます。

TRACK をタッチすると、再生中のアルバムのトラックをランダムに再生します。



- iPodの機種によっては、リピート再生ができない場合があります。
- シャッフル再生中に、iPodをビデオモードに切り替えると、シャッフル再生は自動的に解除されます。

情報を表示する

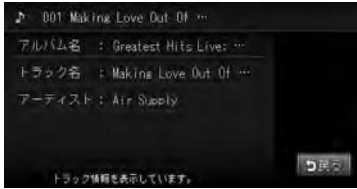
トラック情報を表示する

情報を表示する

ここまでの操作

AUDIO ▶ USB/iPod ▶ リスト

1 **トラック情報** をタッチする
トラック情報が表示されます。



♪ 001 Making Love Out Of ...
アルバム名 : Greatest Hits Live: ...
トラック名 : Making Love Out Of ...
アーティスト : Air Supply

戻る

トラック情報を表示しています。

iPodを聴く／iPodビデオを観る

iPodの接続方法を切り替える

接続方法を切り替える

iPodの接続方法を、「USBのみ」または「USB+VTR接続」から選択します。
工場出荷時は「USBのみ」に設定されています。

接続方法を切り替える

ここまでの操作



▶ USB/iPod ▶

▶ 機能

1

接続方法 をタッチする



2 接続方法を選択してタッチする



USB接続 :

iPodはミュージックモードのみの対応になります。iPodビデオモードへの切り替えはできません。

USB+VTR接続(アナログ音声) :

VTR端子をiPodの映像、音声入力として使用します。この設定を行うとソース選択画面の**VTR** は非表示になり、VTR機器のご利用はできません。



- 接続方法を変更した場合は、iPodの接続を一度解除して再度接続してください。



オーディオ・ビジュアル編

Bluetoothオーディオを 聴く

Bluetoothに対応しているオーディオ機器を本機に登録して、音楽を再生できます。

Bluetoothオーディオを使う 158

Bluetoothオーディオを使う

Bluetoothオーディオを本機に登録する（ペアリング）

初めてBluetoothオーディオを利用するときは、本機に登録（ペアリング）する必要があります。



- Bluetooth方式に対応しているオーディオ機器を使用してください。ただし、Bluetoothオーディオの種類によっては、ご利用になれない場合やご利用いただける機能に制限がある場合があります。
- 本機からオーディオ制御ができない場合は、オーディオ機器からオーディオプレーヤーの操作をしてください。詳しくはオーディオ機器の取扱説明書をご覧ください。
- Bluetoothオーディオについて詳しくは、各取扱説明書をご覧ください。
- Bluetoothオーディオの収納場所、距離によっては、接続ができない場合や、再生している音楽の音飛びが発生するなど、正常に再生できない場合があります。できるだけ通信状態のよい場所に置くことをお勧めします。また、周囲に無線LANなどの電波を出す機器がある場合は、それらをOFFにするか遠ざけてください。
- Bluetoothの特性上、まれに動作が不安定になることがあります。そのような場合は、本製品、またはオーディオ機器の電源を入れ直してください。
- 著作権保護された音声はご利用いただけません。
- 走行中はペアリングを実行できません。
- 電話関連機能を実行している間は、オーディオ音声は出力されません。
- Bluetoothオーディオは、10台までペアリングすることができます。11台目をペアリングするには、すでに登録されたペアリング情報を削除する必要があります。
- Bluetoothオーディオ再生時にインターネット接続やハンズフリー通話を開始した場合は、Bluetoothオーディオの再生を一時停止します。オーディオ機器によってはインターネット接続やハンズフリー通話終了後、一時停止状態のままとなる場合があります。この場合は再度再生ボタンを押してください。

Bluetoothオーディオについて

- Bluetoothオーディオ機器によっては本機側からペアリングできないもの、オーディオ機器側からペアリングできないものがあります。
本機側からペアリングができないものは、オーディオ機器側からペアリングしてください。オーディオ機器側からペアリングができないものは、本機側からペアリングしてください。詳しくはオーディオ機器の取扱説明書をご覧ください。
- Bluetoothオーディオ機器によっては「自動接続」にしていると接続できない場合があります。この場合、「自動接続」をOFFにし、Bluetoothオーディオ機器側より接続してください。詳しくはオーディオ機器の取扱説明書をご覧ください。
- 音飛びなどが発生する場合、オーディオ機器に音質/接続の優先設定があるときには、接続優先に切り替えてください。また、ご使用のBluetoothオーディオ機器がカバンの中や、ポケットに入っていると音が途切れる場合があります。本機の近くに置いてご使用ください。
- Bluetoothオーディオ機器は必ず最新のソフトウェアバージョンにアップデートしてお使いください。
詳しくはご使用のBluetoothオーディオ機器の販売会社にお問合せください。

Bluetooth対応携帯電話をご使用の場合

- 本機側から接続を行うと、携帯電話でオーディオプレーヤーが起動できなかったり、音声正常に出力されないことがあります。ご使用になる場合は、本機の自動接続設定をOFFにし、携帯電話側から接続操作を行ってください。すでに接続状態の場合は、携帯電話から切断操作を行ってください。詳しくは携帯電話の取扱説明書をご覧ください。
- 携帯電話のメディアプレーヤーを停止した場合、Bluetoothオーディオが切断されることがあります。
再度接続を行うには、携帯電話のメディアプレーヤーを起動後、「ヘッドフォン切替」などの設定で本機を選択してご使用ください。詳しくは携帯電話の取扱説明書をご覧ください。
- 本機側から接続できない場合は、携帯電話側から接続操作を行ってください。詳しくは携帯電話の取扱説明書をご覧ください。また、携帯電話を待受け画面にしておくことで、本機から接続できる場合があります。
- Bluetoothオーディオ機器の機種ごとの適合性に関して、詳しくはHonda販売店にお問合せください。

本機に登録する

ここまでの操作



▶ Bluetooth

1 機器選択 をタッチする



2 機器登録 をタッチする



3 ナビから接続可能な機器を探索する をタッチする



Bluetooth接続機器の探索画面が表示されます。



以降の操作については、「携帯電話を登録する (ペアリング)」(P.71) の手順5以降をご覧ください。



• 機器登録画面で

他の機器からナビを探索する をタッチした場合は、Bluetoothオーディオ機器側から本機のパスキー「1212」（初期値）を入力しペアリングしてください。

• 機器登録画面で

ナビから接続可能な機器を探索する をタッチした場合は、「本機に登録する」(P.71) の手順4以降を参照してください。

• ペアリング完了後、Bluetoothオーディオ上で接続するプロフィールを選択する必要がある場合は、「オーディオ」を選択してください。詳しくは、Bluetoothオーディオの取扱説明書をご覧ください。

• ペアリングはBluetoothで電話を利用するとき、またはBluetoothオーディオを利用するときのどちらかで一度操作を行えば、再度ペアリング操作を行う必要はありません。

• Bluetooth対応オーディオ機器の登録を削除するには、「登録情報を削除する」(P.73)を参照してください。

操作画面について

ここまでの操作



Bluetooth



1 2 3 4

■この画面からできる操作

- 1 本体情報の表示や、Bluetooth電源のON/OFFを切り替える …… P.83
- 2 再生、一時停止をする
- 3 再生を停止する
- 4 登録（ペアリング）されている機器を表示する、または機器の登録や削除を行う … P.71



• Bluetoothオーディオの種類によって、本機からの再生、一時停止などの操作ができないことがあります。この場合、Bluetoothオーディオから操作してください。詳しくは、Bluetoothオーディオの取扱説明書をご覧ください。

Bluetoothオーディオを再生する

再生する

ここまでの操作



1

Bluetooth をタッチする

Bluetoothオーディオが再生されます。



- トラック番号、トラックの再生時間、タイトル名は画面に表示されません。
- オーディオ機器によっては、自動的に再生しない場合があります。この場合は本機またはオーディオ機器の再生ボタンを操作してください。

前／次のトラックを再生する

1

または を押す



- を押すとトラックの先頭に戻り、さらに を押すごとに前のトラックに移動します。
- を押すごとに次のトラックに移動します。



注意

- AVRCPに対応していないBluetoothオーディオ機器の場合、本機からの再生、早送り／早戻しや、前／次のトラックへの移動はできません。また、AVRCP対応Bluetoothオーディオ機器でも、再生、早送り／早戻しや、前／次のトラックへ移動できない機器があります。

早送り／早戻しする

1

(早送り) または (早戻し) を押し続ける



- から指を離すと、通常の再生に戻ります。